

論文内容の要旨

論文題目 看護職の well-being に関連する要因

指導教員 中島 美津子 教授

東京医療保健大学大学院看護学研究科

2017 年 4 月入学

博士課程看護学専攻

氏名 山田恵子

【研究目的】

看護職の well-being と看護実践環境の現状、看護専門職の 3 側面である目標と理想、社会的責任、社会的評価の構成要素を明らかにし、看護職の well-being に関連する要因を明らかにすることである。

【研究方法】

研究デザイン：仮説検証型質的量的横断研究

調査方法：無記名自記式質問紙調査

調査内容：仮説検証に使用する尺度は、Diener et al. (1985) の The Satisfaction with Life Scale (以下 SWLS)、前野の幸福の 4 因子、佐藤・安田 (2001) の Positive and Negative Affect. Schedule 日本語版 (以下 PANAS)、緒方ら (2008) の Practice Environment Scale of the Nursing Work Index 日本語版 (以下 PES-NWI) を用いた。さらに「目標と理想」は、島井 (2015) の well-being の適応の側面に関連する先行研究を参考に、「社会的責任」は、山本ら (2017) の先行研究を基に、「社会的評価」は、島井 (2015) の well-being の仕事への関与、対人関係の側面に関する先行研究を参考に作成した。文章完成法に関する刺激文は、目標は「私にとって、目標の看護は」、理想は「私にとって、理想の看護とは」、社会的責任は、「私にとって、看護者としての社会的責任とは」、社会的評価は、「私にとって、看護の社会的評価が高まるとは」とした。属性は、well-being に影響を及

ぼすと考えられる項目を先行研究や周辺研究などから抽出し、年齢、性別、居住地、最終学歴、就業形態、資格、経験年数、婚姻状況などとした。

調査期間：2018年2月～2018年12月

調査対象：調査協力に承諾の得られた病院（6291名）、高齢者施設（19名）、診療所（41名）、訪問看護ステーション（120名）の58施設、6471名に調査票を配布した。回収は、4586名から回答が得られ（回収率70.8%）、そのうち4485名（有効回答率69.3%）を分析対象とした。地域別回収数は、北海道・東北地方1072名（23.9%）、関東地方1669名（37.2%）、中部地方1249名（27.8%）、中国地方204名（4.5%）、九州・沖縄地方290名（6.4%）であった。対象は、看護師の資格を有する者は4163名（92.8%）であり、クリニックや病院に勤務する助産師を含んでおり、病棟に勤務する看護職は3094名（69.0%）であった。年齢の平均は37.30（±SD11.24）歳で、女性が4018名（89.6%）であった。

分析方法：数量データは基本統計量を算出し、尺度との関連はPearsonの積率相関関係、3群以上の平均値の比較には一元配置分散分析、kruskal-wallis検定、TukeyのHSD法による多重比較、カテゴリーデータの比較は χ^2 検定を行う。仮説検定には、重回帰分析（強制投入法）を行った。統計分析には統計ソフトSPSSver.24を使用し、統計検討における有意水準は5%未満とした。文章完成法で得られた内容については、KHCoder（樋口2014）を使用し、頻出語および共起ネットワーク検索を行った。分析過程において、分析ソフトの結果を質的研究に精通した研究者のスーパーバイズを受け、クリティカルな検討を繰り返し行い、信頼性・妥当性を確保した。

倫理的配慮：研究対象施設の看護部長に調査用紙を提示し、研究の目的、調査の内容と方法、回収方法について文書と口頭により説明し承諾を得た。研究対象者に対し、調査の目的、本調査への協力・辞退は自由意思であること、データは研究以外の目的では使用しないこと、プライバシーの厳守等を明記し、投函をもって同意とみなす説明をした別紙を調査用紙とともに配布した。本研究は東京医療保健大学ヒトに関する研究倫理委員会（院29-33）の承認を得て行った。

【研究仮説】

仮説1. 看護職のSWLS、幸福の4因子は、属性と関連する

仮説2. 看護職のSWLS、幸福の4因子は、PES-NWIと関連する

仮説3. 看護専門職の3側面である目標と理想は、属性およびPES-NWIと関連する

仮説4. 看護専門職の3側面である社会的責任は、属性およびPES-NWIと関連する

仮説5. 看護専門職の3側面である社会的評価は、属性およびPES-NWIと関連する

仮説6. 看護職のSWLS、幸福の4因子は、看護専門職の3側面と関連する

【結果】

1. 看護職のwell-beingの現状

看護職のwell-beingの結果は、SWLSは18.72点、幸福の4因子「自己実現と成長」は13.67点、「つながりと感謝」は22.33点、「前向きと楽観」は14.73点、「独立とあなたらし

さ」は 17.11 点、PANAS の「ポジティブ感情」は 23.32 点、「ネガティブ感情」は 25.83 点であった。

2. 仮説検証の結果

仮説 1. 「看護職の SWLS、幸福の 4 因子は、属性と関連する」の結果は、SWLS (調整済み $R^2=0.19$)、幸福の 4 因子「自己実現と成長」(調整済み $R^2=0.14$)、「前向きと楽観」(調整済み $R^2=0.16$)、「独立とあなたらしさ」(調整済み $R^2=0.11$)、で支持された。

仮説 2. 「看護職の SWLS、幸福の 4 因子は、PES-NWI と関連する」の結果は、調整済み $R^2=0.03\sim 0.07$ で支持されなかった。

仮説 3. 「看護専門職の 3 側面である目標と理想は、属性と PES-NWI と関連する」の結果は、目標で属性 (調整済み $R^2=0.02\sim 0.04$)、PES-NWI (調整済み $R^2=0.02\sim 0.03$)、理想で属性 (調整済み $R^2=0.01\sim 0.06$)、PES-NWI (調整済み $R^2=0.05\sim 0.10$) で支持された。

仮説 4. 「看護専門職の 3 側面である社会的責任は、属性と PES-NWI と関連する」の結果は、属性 (調整済み $R^2=0.03$)、PES-NWI (調整済み $R^2=0.09$) で支持されなかった。

仮説 5. 「看護専門職の 3 側面である社会的評価は、属性と PES-NWI と関連する」の結果は、属性 (調整済み $R^2=0.06$) で支持されず、PES-NWI (調整済み $R^2=0.12$) で支持された。

仮説 6. 「看護職の SWLS、幸福の 4 因子は、看護専門職の 3 側面と関連する」の結果は、SWLS (調整済み $R^2=0.15$) 幸福の 4 因子 (調整済み $R^2=0.10\sim 0.22$) で支持された。

3. 看護職の well-being に関連する要因

看護職の SWLS に関連する属性は、子どもの有無 ($\beta=0.15$)、看護師 ($\beta=0.05$)、経験年数 ($\beta=-0.05$)、給与 ($\beta=0.06$)、休暇 ($\beta=0.05$)、健康認識 ($\beta=0.07$)、活動意欲 ($\beta=0.24$)、バランスの良い食事 ($\beta=-0.09$) などであった。また、看護職の SWLS と幸福の 4 因子には、目標の「自己評価」($\beta=0.06\sim 0.17$)、理想の「看護の理想が高い」($\beta=0.04\sim 0.11$)、「年々理想が高まっている」($\beta=0.05\sim 0.14$)、「理想と日々の実践のギャップ」($\beta=-0.15\sim 0.04$)、社会的評価の「看護職の家族」($\beta=0.08\sim 0.15$)、「看護職同士」($\beta=0.05\sim 0.13$)、「患者・家族」($\beta=0.06\sim 0.11$) であった。

4. 看護職が認識する看護の理想と目標、社会的責任、社会的評価の構成要素

目標は、①対象に寄り添う看護、②基本となる知識・技術・態度、③多職種連携による医療、④病のある生活への支援、⑤個別のニーズに応じる看護、⑥置かれた現状の理解、⑦より良い状態の追求、⑧信頼関係の構築、⑨心身の苦痛の緩和、⑩適切な判断と対応の 10 カテゴリーで構成された。

理想は、①真の思いの理解、②安心に基づく医療提供、③その人らしい生き方、④倫理的判断に基づくケア、⑤専門職としての知識・技術・態度、⑥包括的健康への支援、⑦希望に沿う、⑧最善の追究、⑨有意義な時間の 9 カテゴリーで構成された。

社会的責任は、①安全な医療と看護、②命に関わる専門職の責任、③生活と環境の調整、④コンプライアンス、⑤尊厳・倫理、⑥人々の健康管理、⑦地域・社会への貢献、

⑧看護の質の追求、⑨サービス提供者としての対応の9カテゴリーで構成された。

社会的評価は、①社会に認知される質の高いケア、②連携による健康支援、③対象者の満足、④有資格者としての責任ある行動、⑤信頼関係、⑥看護への関心、⑦関わる人からの承認、⑧労働条件、⑨労働対価9カテゴリーで構成された。

【考察】

看護職の **well-being** に関連する要因の1つに健康認識が示唆されたことは、先行研究と同様の結果であった。看護職の特徴として健康認識は高いが、身体的疲労や活動意欲の低下を認識しやすい。休暇取得に関しては、看護職は交代制勤務であり、厚生労働省の労働時間調査でも看護職の場合は、長時間労働は問題ではなく、休暇も医師に比べ取得できているものの、常に変化する看護という現場において、十分な休暇は疲労回復のために必要であり、さらに「看護職の家族」からの高い評価を認識している結果から、休暇をどう過ごすかという面も看護職の **well-being** に関連するものと考えられる。

看護専門職の3側面の目標と理想は、理想を高く認識しつつ適切な目標を設定する方が **well-being** は高まるという先行研究と同様の結果が示された。特に看護職は、理想を高く持ち、それを追い求める方が、より質の高い看護を可能にし、仕事の満足も高めると推察される。一方、「看護の理想と日々の実践のギャップ」の認識は、看護職の **well-being** を低下させる要因の1つであると推察され、実践とのギャップの中でも理想に向かって邁進する前向きな行動をとることができるかが重要であることが示唆された。社会的責任の視点では、領域Ⅰ「法や倫理綱領を理解し社会的責任を全うする」は、90%以上の看護職が実践している一方で、領域Ⅱ「コミュニティ、専門職集団、社会への貢献」に含まれる「健康政策への寄与」のカテゴリーの実践は50%以下と低い結果であった。法の遵守にとどまらず、組織や社会へ貢献への繋がりを認識し、自律した看護実践をすることが可能になれば、さらに看護職の **well-being** は向上すると推察される。社会的評価の視点では「看護職同士」の社会的評価の認識は低いものの、看護職の **well-being** に関連する結果から、日々共に仕事をする仲間との時間が重要であると考えられる。

以上のことから、目標と理想のギャップに対応する「適応の側面」、看護専門職の社会的責任を果たすという「仕事への関与の側面」、看護職同士の「人的関係の側面」が相互に関連することで看護職の **well-being** は向上すると考えられる。一方、看護職の **well-being** に PES-NWI は関連せず、看護実践環境は職務満足や職業継続意思という安定した職業生活に影響するが、労働環境を整えても看護職の **well-being** には影響を与えないという結果から、個々への支援が重要であると言える。

【結論と示唆】

看護職の **well-being** には、健康認識および看護専門職の3側面がプラスに関連する結果であった。本研究の結果から、看護職の **well-being** の向上には、健康な働き方への支援、理想に向かう上司の支援、社会的責任を遂行するためのリカレント教育、職場や家族の良好な関係を築くための労働環境支援が求められていることが示唆された。